

県確認調査概要（当面の改善計画の進捗状況確認）

1 調査日時

- (1) 養育園 平成26年6月24日（火）午前10時から午後4時45分まで
- (2) 更生園 平成26年6月25日（水）午前10時から午後4時45分まで
- (3) アドバンス 平成26年6月27日（金）午前10時から午後4時45分まで

2 調査方法

(1) 養育園

県職員4名（障害福祉課職員及び君津健康福祉センター職員）で調査を実施

(2) 更生園・アドバンスながうら

県職員2名で調査を実施

○ヒアリング

○関係資料確認（改善に係る進捗状況が確認できるもの）

○支援状況、施設環境視察

3 ヒアリング

施設長ほか、各施設別に複数の支援員に対して実施。支援員のヒアリングは施設長等他者の同席はなく、県職員と相対で個別に支援現場の状況等を聴取（下（2）②の者は事前に定めず当日朝に県側で対象者を指名）。

(1) 施設長等（聴取時間 約40分）

・養育園：マネージャー、サブマネージャー

・更生園、アドバンスながうら：各施設長

(2) 支援員等（聴取時間 約40分）

各施設2名

① 看護師

② 支援員

4 調査スケジュール概要※

時 間	調 査 内 容 等
10:00～10:05	○確認調査主旨及び日程確認
10:05～10:45	○各施設長等ヒアリング
10:45～12:00	○看護師、支援員ヒアリング（1人約40分）
13:00～14:30	○関係資料確認
14:30～15:30	○施設視察[各施設長等対応]
15:30～16:30	○県担当者、確認結果等打合せ
16:30～16:45	○総括

※終了時間は各施設によって異なる

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 養育園 】

1 改善状況で評価できる点

- (1) 利用者の人権の権利擁護、虐待防止の取り組み
 - ・「支援時禁止事項チェックリスト」から「支援振り返りチェックシート」へ見直したことにより、各職員の支援のあり方についての意識が前向きになっている。
 - ・グループディスカッションでは、寮を超えた職員と討議することにより、他寮の現状や支援のあり方について情報交換ができています。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・第2寮では、職員を入れ替えスキルの高い職員を配置することにより、若い支援員も相談しやすい環境になっている。また、女性支援員の配置により、利用者の活動がスムーズとなり、日中の活動時間が増えている。
 - ・看護師が8：00、15：30に定期巡回することで利用者との関係が築かれてきている。また、パーソナルサポーターによるアドバイス（与薬のあり方）が支援員と看護師との間で情報共有されている。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・外部有識者（民間施設長経験者）によるスーパーバイズ研修が5月28日から毎週実施されている。受講により、重度の利用者への地域移行や開放的な支援の必要性に意識が向くきっかけとなっている。
 - ・医療相談は、児童相談所や特別支援学校など、関係機関と連携して行う体制が図られている。
- (4) 家族等との関係
 - ・事故時の報告等、保護者への連絡が日常的に行われていることを確認できた。
 - ・第1回保護者会を開催するなど、保護者との関係の強化を図っていることが確認できた。
- (5) その他
 - ・パーソナルサポーターと協力しながら、地域移行の準備の取組みが進んでいる。
 - ・寮日誌に日中活動の状況を記入するようになったことで、利用者の状況把握が一本化されるようになった。また、記入者名を記載するようにしたことで、支援員の責任感が増し、記入することへの意識が高まっている。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 利用者の人権の権利擁護、虐待防止の取り組み
 - ・支援員が受講した研修が利用者の支援に生かされるよう、継続的に確認・検証すること。
 - ・利用者の状況や支援の状況を踏まえ「支援振り返りチェックシート」を適宜見直し、更新すること。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・与薬記録と寮日誌の記載の相違（与薬時刻の相違）及び寮日誌への記載漏れ（5月5件、6月4件）が確認されたので、安全確保、与薬の妥当性の確認及び看護師との連携の観点から、正確な記載を徹底すること。
- (3) 支援現場の透明性の確保
 - ・4月以降6月24日現在まで、第三者委員が苦情相談窓口として対応しているが、相談が無い状況である。相談無しの要因を検証し、適切な支援により相談がないのであれば、職員に周知し意欲向上につなげ、他に要因があるのであれば、解決に向けた方策を検討すること。
- (4) その他
 - ・寮日誌への日中活動の記載については、特記事項のみならず、利用者の活動の様子も記載し、以後の支援に生かせるようにすること。また、利用者の良い点にも目を向け、記載するよう努めること。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

- ・特になし

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 更生園 】

1 改善状況で評価できる点

- (1) 利用者の人権の権利擁護、虐待防止の取り組み
 - ・軽易な事故事例も事故として整理し保護者に報告することにより、各支援員が常に外部の目を意識し、説明できる支援を心がけることに繋がっている。
 - ・「振り返りチェックシートのチェックが一日を振り返るいい機会になるとともに、他人に見られることを意識するようになった」との話を聞け、支援員が支援に前向きに取り組んでいる様子がうかがえた。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・医療的ケアが必要な利用者の場合は看護師がモニタリング会議に参加するなど、利用者の特性に合わせたモニタリングが行われるようになっている。
 - ・スーパーバイザー等の助言が個々の利用者の特性に合わせた支援に向けて活用されていることを確認できた。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・「事故報告書を作成することにより、利用者の健康管理に関する意識や危機管理意識が高まるとともに、事故防止に向け改善方法を検討することによって結果的に支援スキル向上にも役立っている」との話を職員から聞いた。
- (4) 家族等との関係
 - ・事故時の報告等、保護者への連絡が日常的に行われていることを確認できた。
 - ・第1回保護者会を開催したほか、保護者会主催の見学会が予定されている等、保護者との関係の強化を図っていることが確認できた。
- (5) その他
 - ・毎朝、看護師が支援日誌を読み、利用者の不穏状況、健康状況等を確認した上で、朝の引継ぎに参加する等、医療職が利用者の日常状態を把握し、支援員と連携していることが確認できた。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 利用者の人権の権利擁護、虐待防止の取り組み
 - ・グループディスカッションは、まだ開催回数及び延べ参加人数が少ないので、継続して取り組むこと。
 - ・事故報告書について、取扱いが寮間によって異なるので整理すること。また、慣れによる事故報告の定型化・形骸化に十分留意するとともに、事故報告作成の負担が大きいようなので、事故報告書として提出する部分と事故報告ではなく記録として残す部分の整理について検討すること。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・モニタリング会議について、看護師等の専門職及び保護者の参加・不参加の規律が不明確であるとともに意見交換の内容に不明な点が見られた。モニタリング会議には可能な限り保護者の参加を求めるとともに、支援員と専門職や保護者が十分な意見・情報交換ができるように配慮すること。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・研修受講の機会については周知徹底し、可能な限り多くの研修を受講できるよう取り計らうこと。
- (4) 家族等との関係
 - ・利用者の怪我等については引き続き保護者への連絡を行う等、様々な機会を通じて、積極的に利用者の保護者等との関係強化を図ること。
 - ・引き続き保護者会を継続的に開催すること。
- (5) その他
 - ・寮間・施設間の交流・情報共有に努めること（袖ヶ浦福祉センター養育園に対してパーソナルサポーターから8つの提言が行われており、更生園においても提言を把握し、必要に応じ活用すること。）。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

- ・特になし

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 アドバンスながうら 】

1 改善状況で評価できる点

- (1) 利用者の人権の権利擁護、虐待防止の取り組み
 - ・職員の「チェックシート」をもとに、幹部職員が職員と面談を行い、前回（3月）実施時と
同じ項目にチェックのある職員には、その要因等を確認し、重点的に当該項目に取り組み、改善が図られるようにしている。
- (2) 支援サービスの向上
 - ・サービス向上に向けたアンケートを実施し、分析結果を職員に周知するとともに、改善を要する点（個別支援計画の作成とその活用）について、研修を計画するなどの対応がなされている。
 - ・看護師、栄養士が利用者のケース検討会や毎月の班会議に参加し、利用者の現状を理解するとともに、医療面や摂食面についてアドバイスをを行っている。
- (3) 家族との信頼関係の構築
 - ・服薬変更が必要な場合は、医師、看護師と連携の上、保護者との医療相談を行い、変更の必要性等を十分に説明している。
 - ・事案を含め、利用者の様子（特記すべき様子）について適宜、家庭との連絡が密に図られている。
 - ・定期的に広報誌を発行し、家庭への情報発信に努めている。
- (4) 人材育成
 - ・看護師による「介護技術研修」は、実践的な研修内容であり、利用者への支援に生かされている。
- (5) その他
 - ・看護師が積極的に支援員と連携し、利用者支援（医療面）をサポートしている。
 - ・空き缶拾いや、利用者のみによる弁当配達など、地域との関係構築を意識した取り組みが図られている。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 支援サービスの向上
 - ・サービス向上に向けたアンケートでは、項目の具体化等により、より詳細な課題分析と継続的な対応を行うこと。
 - ・研修実施後は、利用者への支援に生かされているか等を検証し、必要に応じて研修内容、方法を改善すること。
 - ・「ヒヤリハット」では、与薬に関する報告が多いことから、これらの事案を解決すべく必要な方策を講じること。
- (2) その他
 - ・支援員と看護師の連携については、看護師への相談等、支援員からも積極的にコミュニケーションを図り、関係職員による支援が充実するよう努めること。
 - ・第三者委員による利用者の相談内容については、職員会議で報告されているが、内容を把握できていない職員が確認されたことから、全職員に周知徹底するよう努めること。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

- ・特になし